

Do a Front
AIR
2021

●参加アーティスト

アイチャ・チェイラン [トルコ]
ゾアン・タン・トゥアン [ベトナム]
東山 詩織 [日本]

●滞在期間 / 2021.10.1 (金) ~ 11.10 (水) [40日間]

舞うように考える Thinking like Dancing

2019年の暮れから始まった新型コロナウイルス感染拡大は、私たちの身体の振る舞い方に多大な影響を与えています。ソーシャルディスタンスや消毒、オンラインによるコミュニケーションなど。当初予想されていたよりも長く猛威をふるうウィルスに対して、ただちに生活様式を更新する重要性和同時に、新たな振る舞いのあり方を長期的に養成していく必要性も感じます。今回のAIRプログラムでは、ゲストキュレーターにレオナルド・バルトロメウスを迎え、アーティストと共に、即効性と遅効性の両者を兼ね備えた「舞い」のような思考と実践の方法を模索したいと考えています。

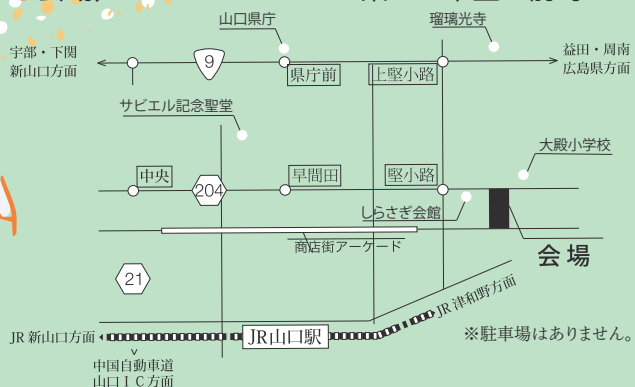
●成果展覧会期

2021.11.5^{FRI} ~ 11.14^{SUN}

11.5 (金) ~ 11.10 (水) 会場: Do a Front
11.11 (木) ~ 11.14 (日) 会場: website

入場無料

●会場 / 〒753-0032 山口県山口市堂の前町1-9



◇ JR山口線 山口駅 から徒歩 15 分
◇ 中国自動車道山口 IC から約 25 分

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日程及び会場がオンライン等に変更になる可能性があります。状況が日々変動しているため、お出かけ前に、facebookページやe-mail、お電話での確認をお願いします。

[問い合わせ] 電話: 050-3470-7858 E-mail: info@doafront.org

主催: Do a Front 助成: 文化庁 令和3年度 アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業

協力: 山口現代芸術研究所、山口大学人文学部藤川哲研究室、山口大学教育学部中野良寿研究室、N3 Art Lab



アイチャ・チェイラン／トルコ

Ayça Ceylan

パフォーマンス・アーティスト、振付家、アート・ライター。

ダンス、神話、心理学、本草学、文学、技術といった分野を同時に用いて、人が感覚情報を受け取り自身の体験として認識するプロセスに関するサイト・スペシフィックなパフォーマンスを創作する。

自身の作品の中でチェイランは身体と空間がどのように互いを構成しあうのか、その2つが補いあうプロセス、身体としての政治国家、生物の種が混在する状態などに焦点をあてる。人の原型的な記憶に影響を及ぼす、ギャラリー、博物館、公共空間、古代都市といった場を好む。儀式、象徴性、女神信仰、自然との同調などから学び、作品づくりのサポートとしている。

2018年には Body in Perform を設立し、芸術監督を務める。これまでにパフォーマンスやワークショップを各地で開催。またアートライターとして執筆活動もしている。

<https://aycaceylan.wordpress.com/>



ゾアン・タン・トゥアン／ベトナム [HERITAGE SPACE 交換プログラム]

Doan Thanh Toan

クアンガイ生まれ、育ち。ホー・チ・ミン在住。

パフォーマンス・アーティスト、振付家。

アナヤ・ダンス・シアターで研鑽をつみ、振付家パトリシア・ブラウン率いるブラウン・スピリット・アンサンブルでアフリカダンスをベースとした動きを学ぶ。

コミュニティ、正義、そしてフェミニストやクィアによる世界づくりが収束・融合する点としてダンスをとらえる。トゥアンは身体の動きに基づいた幅広いパフォーマンスを通じて、政治的な身体の実在に呼応する。彼の作品はジェンダー、暴力、孤独、帰属などの個人的かつ政治的な問題とも連動している。サウンドやヴィジュアルなど他分野のアーティストとの共同プロジェクト、ダンスや動きを通して関係を培うワークショップや、ジェンダー問題にまつわる提言といった活動も行っている。

<https://doanthanhloan.com/>



東山 詩織／日本 [HERITAGE SPACE 交換プログラム]

Shiori Higashiyama

兵庫県生まれ。

言葉や会話、言語の解釈のずれを重要な観点とし、個人の日記、記録、現象から引き出された言葉やイメージを用いて平面作品を制作。理解の手段としての絵画にも興味を持ち制作している。近年の展示には「Ai mi Tagai」(遊工房アートスペース、東京、2021年)、「エマージング・アーティスト展」(銀座 蔦屋書店、東京、2021年)、「Simple bed」(Token Art Center、東京、2020年)がある。



蔵田 章子 [ディレクター／審査員]

1979年山口生まれ。2018年よりDo a front ディレクター。2012年に、生まれ育った町の無名な古い日本家屋や衰退する文化を継承したいと考え、地域資源の祭りや空き家を美術領域で再活用するDo a frontを有志とともに立ち上げる。地域の様々な人々からサポートを受け、毎年アーティスト・イン・レジデンス事業を行っている。



レオンハルト・バルトロメウス [ゲストキュレーター／審査員]

1987年、デボック(インドネシア)生まれ。現在は山口情報芸術センター[YCAM]のキュレーター。ジャカルタ芸術大学を卒業後、2012年にruangrupa(後にGudskul Ekosistem)に参加。近年は、オープン・エデュケーションとコラボレーション・プロジェクトに焦点を当てる。2017年、ジャカルタ、スマラン、スラバヤの数人のキュレーターと共に、KKK(Kolektif Kurator Kampung)というキュレーション集団を結成。現在も海外での独自調査や協働企画を精力的に行っている。



内海 潤也 [審査員]

1990年、東京都生まれ。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科キュレーション専攻修了。黄金町エリアマネジメントセンターキュレーターを経て、現在は公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館学芸員。ジェンダーに関心を寄せ、日本と東南アジアの現代美術を調査・研究しながら、展示企画、執筆などを行う。



藤川 哲 [審査員]

美術史家。1997年から2002年まで群馬県立近代美術館学芸員として、第4回群馬青年ビエンナーレ(1999年)やオノサト・トシノブ展など、現代美術展を担当。2002年より山口大学人文学部教員。共著に『ビエンナーレの現在』(青弓社、2008年)、『キュレーションの現在』(フィルムアート社、2015年)、など。



三浦 梨絵 [審査員]

緑と花と彫刻の博物館(山口県宇部市)学芸員。2002年東京藝術大学芸術学科卒業。東京芸術大学美術館、東京国立博物館等で非常勤職員として勤務後、2009年から現職。野外彫刻国際コンクール「UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」の事務局として、企画運営に携わる。

プログラム

●滞在期間/2021.10.1(金)~11.10(水)[40日間]

●展覧会会期

2021.11.5(金)~11.10(水) 会場: Do a Front

2021.11.11(木)~11.14(日) 会場: website

いずれも入場無料

《AIRに関する問合せ》

web: www.doafront.org e-mail: info@doafront.org 電話: 080-4556-3858(蔵田)

